

### 第三十九回新日美展 実行委員長を引き受けるに当たって

鈴木 忠義

第三十九回展は新体制になって初めての開催であり、中尾会長亡きあとの会長をしのぶ本展でもある。

この度、三十九回展の実行委員長の大役を受け、その責任に対し身の引き締まる思いです。実施に当たっては、とにかく第三十九回展を盛大にやりましょうということ。このことが会全体の盛り上がりになり、亡き会長への贖になると考えます。

このためには、皆様の絶大なご支持と協力が必要でなくては立派にやり遂げることは出来ません。一にも二にも、皆様からの一致団結した支持が必要でなくてはなりません。

これまで歴代の実行委員長が心がけ実施してきたように私も作者と観客とのコミュニケーションのとれた、垣根のない一体になった全員参加の展覧会になるよう目指したいと思っております。そのためには皆の知恵をお借りして盛り上げていく方法を考えたいと思っております。作者の見える展覧会にしたいと考えています。

また支部展を開催される支部も終わった支部も、ぜひ実施して頂きたいのですが、第三十九回新日美展の応募要項(三つ折りチラシ)を積極的に活用して、一般出品者への勧誘をどんどん行い、出品を呼び掛けて下さい。キヤッチフレーズには「あなたの自由な作品を待っています」「あなたの個性豊かな作品を東京都美術館で発表してみませんか!」三十九回展が一般応募者で溢れるよう、会員の皆様是非勧誘して下さい。一人でも多くの方が応募してくれるように盛り上がりのある三十九回展にしましょう。

展覧会運営のお手伝いは委員だけでなく、一般会員の積極的な参加、お手伝いを歓迎します。どうかよろしくご協力をお願いします。

日頃の地道な活動により展覧会とともに、新日美ファンが一人でも増えるよう皆様頑張ってくださいませ。

### 作家近況

郷土と絵画 青山絹江

北の北海道ならではのイベントで札幌雪祭り、オホーツク流氷、それと同時に阿寒湖温泉も氷上フェスティバルが開かれます。七十センチ以上の厚い氷の上で花火やワカサギ釣り、スノーモービル等々外国人も多く沢山の観光客で賑わいます。

私が絵画を本格的に始めたのは釧路市町村合併で釧路市民になったのを機に、当地より往復三時間半かけて阿部ススム先生に四年間師事しました。此の頃新日美との出会いがあり、三十三回展に初めて入選し、三十五回展は東京都美術館がリニューアルする為、上野の森美術館へ出展することになりました。絵の大きさ五十号以下に限定もあり幸いしたのでしょ



年間入場者 70 万人のイコロシアター

年初めには地元信用金庫に飾り、毎年二月に開催される釧路多目的センターで郷土作家推薦による有名作家と共に展示出来ました。今年で六年度目となります。現在阿寒湖温泉に建つイコロシアター

(アイヌ古式舞踊、人形劇等上演)に絵画二枚を飾らせて頂きました。

そんな中鈴木委員の推薦で東京新日美選抜小品展にオファーがあり喜んで出品させて頂きました。受賞した年と二度目の出展で続けて二枚販売して頂き、新日美関係者の皆様に微力ながら協力できたとうれしく思っています。

新日美展にはいつもアイヌをモチーフに出展していますが、郷土の魅力を中心に発信できることはこの上ないチャンスと思ひ、構図やデッサン、色彩で悩みいつも試行錯誤で臨んでいます。

鑑賞して下さる人達に感動が伝わるよう

斬新な画風を目指して頑張つて参りたいと思つています。

もうすぐ三十九回展が近づいてまいりますが大きなイベントだけに身を引き締まる思いです。二数年いつも東京で絵画を拝観するのが楽しみです。特に芳賀先生の有意義なギャラリートークで、それぞれの展示室をついて回り講評を貧欲に吸収して帰つてまいります。

### 果敢に挑む、悩むそして僅かな前進

高橋 輝剛

何がきっかけだったのか、いまだにハッキリした事は判らない、だが作品の完成度は別にして確実に筆を擱くのが、早く成った。それ迄は百号の完成に四ヶ月は有に費やしていた。その間に合わせて八、三十号を四、五枚描き上げるのがパターンであった、現在では三月足らずのスピードアップとなった。何も急いではいない、焦つての事でもない。

さて、夏は暑い、冬は寒い、この時期は両方とも私は大の苦手。春の芽吹き彩の季節、そして実りの秋、虫の声、落葉樹の紅葉、夫婦春秋は本当にいい季節である。

あれはある日の事。気候なんて何のその、それは「新作の制作に没頭している時です」更に「順調に進行し毎日楽しくキャンパスに向かい完成をイメージし、夢と希望が沸々と湧き出て、自然に顔がほころび我がアートの世界が自然に大きく拡大していく状態になって参りました」まだ更に続くのです。「思う存分に次から次にアイデアが浮かび、次々と恐ろしい位の展開で進行、爆進です。構図も宜しい、陰影も申し分なし色彩の配分もまずまず」そして思う事は「何故、こんなに旨いのか」でした。

何で、「それはスキースに万全を期したからだ、やはりスタートが肝心なのだ、始め良ければ終わりよしやはり仕事も遊びも全てが段取りだ」そうだよ、何でも思つた事、考えた事を

どうしたら実行に移せるかだ。考えた、思つたわよ、「此の理屈三十代で解つていたらなら、また人生変わつていたらうに残念至極だから人生いろいろ、アートの色彩、男女共に色々だ 分つちやいるけどなんとやら。

「百号を一枚チマチマ描くなんて、何でこつちや四五枚まとめて大胆に描けばいいじゃないのか、ただけど散漫になつて二兎追うもの一兎も得ずになるな」こうしたらどうだ五枚は無理でも二枚はいけるだろう。風景、人物、静物、心象画、抽象画とあるなかで、とお前さんには、とてもじゃないが、抽象画はだめだな。「なんで抽象画はだめなのだよ、時には描きたいな」と思う時もあるけどね」

突然「ヒステリックな大声」総論賛成、各論反対「何何、何よそれだが我が身に掛かる何らかのプレッシャーにはやみくもに、反旗をひるがえす。一体何がいつのまにか何かに嵌つてしまったのか? ジャンルの異なる二枚にチャレンジしたのは、どれだけ頭の切り替えが出来、整理整頓した上であらためてキャンパス上で第三次元に挑めるか? チマチマと描くな? だろう、そして大胆に描くべきじゃないのか? あれ? 背景が? 消えている、しつかり決めていたのに何故消えているのか? 絶句 苦しいこんな筈はない。オーオー 夢か夢で良かったよ、やっぱりコツコツと丁寧に描いていなくては、完成しないね。

一朝一夕には何事も思うようには出来ないものだ。出来ないから少しでも出来る様になりたいと、努力するものと思う。簡単に出来る様では逆に面白くない、本当は出来ないものかも知れない、いつかは出来ると思ひ込み試行錯誤を繰り返して、悩み続ける永遠の課題だからこそ果敢に挑む。だからこそ考える楽しさ、悩むそしてほんのわずかな前進がある、それから発見がある。好きになつてくる。やめられない。悩む、感動、思考、昂奮、発見、驚嘆、落ち込む全て自分の世界、自分の責任、しかし繰り返して何故か続ける苦しいけれど、楽しいのではないかと。やっぱり続けて行くことになる、人生これが今の私である。

### 制作近況

二瓶 博厚

新日美の皆様には日頃お世話になっております。私の最近の制作活動、成果について若干お話しさせていただきます。